

科目名 (科目番号)	臨床化学演習 (時間割参照)	教員名 飯塚 儀明	学科等	臨床検査	選択	履修年次	4
	曜日・時限等		時間割表参照	単位数		1	
	授業形態		演習	オフィスアワー			
授業概要	生化学、臨床化学Ⅰ、臨床化学Ⅱ、検査診断学演習、臨床化学実習の知識と臨地実習での体験を整理し、さらに総合的な知識や理解力を高めるために選択科目で再履修することで、十分に納得し身につけることができる。また、卒業後に必要とされる臨床化学全般の知識が身につく。						
目的・目標	目的:これまでに学んだ臨床化学検査の知識を基に、それらの分析方法や分析装置などについて、臨床化学を体系的に把握する。 目標:臨床化学検査の分析法や試薬組成などを理解すると共に、臨床的意義についても説明できる。						
準備学習	毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること。						
授 業 計 画	回	授業項目	到達目標・学習内容				
	1	臨床化学分析の基礎	到達目標:下記の内容について理解して説明できる。 学習内容:測定値の変動要因、分析法の基礎知識、定量分析の分類などについて具体的に学習する。				
	2	電解質と微量元素(その1)	到達目標:下記の内容について理解して説明できる。 学習内容:Na、K、Cl、重炭酸イオンの測定法と臨床的意義について具体的に学習する。				
	3	電解質と微量元素(その2)	到達目標:下記の内容について理解して説明できる。 学習内容:Ca、無機リン、Mg、Fe、Cu、Znの測定法と臨床的意義について具体的に学習する。				
	4	糖質	到達目標:下記の内容について理解して説明できる。 学習内容:糖尿病の診断に有用な血糖やヘモグロビンA1c、75gOGTTなどの測定法と臨床的意義について具体的に学習する。				
	5	タンパク質	到達目標:下記の内容について理解して説明できる。 学習内容:タンパク質の種類・機能、測定法について具体的に学習する。				
	6	非タンパク性窒素(その1)	到達目標:下記の内容について理解して説明できる。 学習内容:非タンパク性窒素成分のアンモニア、尿素窒素、尿酸の測定法と臨床的意義について具体的に学習する。				
	7	非タンパク性窒素(その2)	到達目標:下記の内容について理解して説明できる。 学習内容:非タンパク性窒素成分のクレアチニン、ビリルビンの測定法と臨床的意義について具体的に学習する。				
	8	リポタンパクと脂質(その1)	到達目標:下記の内容について理解して説明できる。 学習内容:リポタンパク、コレステロール、トリグリセライドの測定法と臨床的意義について具体的に学習する。				
	9	リポタンパクと脂質(その2)	到達目標:下記の内容について理解して説明できる。 学習内容:リン脂質、遊離脂肪酸、ケトン体、胆汁酸の測定法と臨床的意義について具体的に学習する。				
	10	酵素活性項目(その1)	到達目標:下記の内容について理解して説明できる。 学習内容:酵素活性測定の原因とAST、ALT、LDなどの測定法と臨床的意義について具体的に学習する。				
	11	酵素活性項目(その2)	到達目標:下記の内容について理解して説明できる。 学習内容:ALP、γ-GT、ChEなどの測定法と臨床的意義について具体的に学習する。				
	12	酵素活性項目(その3)	到達目標:下記の内容について理解して説明できる。 学習内容:CK、AMY、リパーゼ、NAGなどの測定法と臨床的意義について具体的に学習する。				
	13	ホルモン(その1)	到達目標:下記の内容について理解して説明できる。 学習内容:ホルモンの種類と分類および成長ホルモン、甲状腺ホルモンの検査とその臨床的意義について具体的に学習する。				
	14	ホルモン(その2)	到達目標:下記の内容について理解して説明できる。 学習内容:カルシウム調節系ホルモン、副腎皮質・髄質系ホルモンの検査とその臨床的意義について具体的に学習する。				
15	骨代謝マーカーと血中薬物濃度	到達目標:下記の内容について理解して説明できる。 学習内容:骨代謝マーカー、血中薬物濃度測定の原因とその臨床的意義について具体的に学習する。					
成績評価の方法・基準	期末試験100%(対面・オンライン共通)						
教科書	最新臨床検査学講座 臨床化学検査学 第3版		戸塚 実、奥村伸生、浦山 修ほか		医歯薬出版株式会社		
参考図書	ポケットマスター臨床検査知識の整理 臨床化学		芝 紀代子、栗原由利子、外園栄作		医歯薬出版株式会社		
教員からのメッセージ	ただ暗記するだけではなく、これまでに学んだ生化学、臨床化学検査学、臨床化学実習および臨地実習の知識を統合的に理解することにより、応用力が培われます。大学病院の検査室で勤務した臨床検査技師がこの授業を担当します。 オンライン授業に伴い授業計画に変更がある場合は、オンラインクラスで変更のシラバスを周知致します。						